



洋書輸入協会会報

Vol. 30 No. 6 (通巻349号) 1996年6月

定時総会報告

1996年度定時総会は5月17日(金)午後1時からホテル・サンルート東京〔芙蓉の間〕にて開催された。

〔出席状況〕	出席	49社
	委任状	34社
	計	83社

正会員97社に対して上記のとおり過半数の出席を得たので、協会規約第5章30条に基づき総会は成立した。なお、賛助会員の出席は2社であった。

高橋総務副委員長(丸善)の司会により開会、先ず、神田事務局長より総会成立が報告された後、1995年度中の会員の動向が次のとおり報告された。

〔入会〕なし

〔退会〕(株)文生書院 明治書房
(株)第三書房 三品書店
ゴールデンブック(株)

〔資格変更：賛助会員より正会員へ〕

Addison-Wesley Publishers Japan
Baker & Taylor International
Longman Japan
OBK

開会にあたって、海老原理事長より次のような挨拶があった。

『先ずはじめに、先頃亡くなりましたユサコ(株)の山川会長、(株)三善の大久保社長及び白鷗洋書(株)の秋山社長のご冥福を心からお祈り申し上げます。』

さて、ご案内のとおりバブル崩壊後の平成不況が、昨年の秋ごろから少しづつ又部分的に回復の状況が見えて

きました。消費関連ではデパートの売上がどうやらこの4～5月頃から、少なくとも昨年の数字を上回り、消費が多少動きだしたことが実感できるようになって参りました。一方、各企業の求人はなかなか厳しい状況が続いておりますが、臨時採用のデータでは多少求人倍率が改善されつつあるようで、昨年までの暗さに比べて今年はなんとか明るい、或いは商売の方にも手応えが出てくるのではないかと期待しております。

わが洋書業界では、そのような景気回復の状況に合わせてどのようなになっているのか、「洋書輸入通関統計」で見ますと、バブル最盛期に当たる1990年に比べて8割方戻ってきたかと感じられます。私どもの商売を見ますと、洋書は立ち直った、という感触が持てずに困っておりますが、これ以上悪くなることもないのでしょうか。その一方で、アメリカ商務省の発表によれば、1995年度の書籍輸出額はカナダ、イギリスに次いで日本が③番目、1994年に比べて28%増しだそうです。今年は何とかこれを増収・増益につなげ、少なくとも世間並みに景気が良くなったことを実感出来るよう是非頑張っていただきたいと思います。

ご承知のとおり、去る4月26日に公正取引委員会から会員7社が呼ばれて、独占禁止法第三条(不当な取引制限の禁止)違反の容疑による排除勧告を手渡されました。これを受諾しますと何らかの処分が通達されるものと思いますが、この重大性は処分の有無ではなく、洋書界全体がそのようなことをして、一般の心証を大きく損ねたことです。

目次

定時総会報告	1	計報	4	洋書輸入協会史(106)	6
理事会報告	3	文化厚生委員会だより	4	広告	8
おしらせ	3	出版文化史逍遙(6)	5		

多くの会員の皆様にご迷惑をおかけしましたことを、理事長社としてたいへん遺憾に存じております。

ところで、今総会直前の5月13日に紀伊國屋書店から洋書輸入協会を退会するという文書提出がありました。早速理事会を召集し、この処理の仕方について協議するとともに、同書店の高井理事代理に出席を求めて理由を聴き慰留に努めましたが“社としての決定である”ということまで翻意に至りませんでした。

洋書業界はこれまでに内外で様々な問題に直面して参りましたが、この際環境の変化を十分に踏まえて、新しい協会の活動、新しい協会の在り方についても改めて再検討、再確認する時期に来たのではないのでしょうか。活発にご論議いただきたいと存じます。』

続いて中田理事長代理より概略次のような理事会報告があった。

◇公正取引委員会立入り調査

公正取引委員会の立入り調査が当協会にも行われた。関係書類が押収され、事務局長が数度にわたって事情聴取されたものの、協会は排除勧告の対象にはなっていない。

◇1996年東京国際ブックフェア

2月8日～11日に幕張メッセで開催され、今回も当協会は主催者団体の一員として参加した。(会報3月号に詳報済み)。

◇会員資格

協会規約に照らして正会員の資格がある賛助会員、4社が新たに正会員になった。これにより議決、選挙および被選挙権を有する正会員は97社である。

◇会員台帳

協会の記録・データ等整備の一環として、会員台帳を作成する。

◇ユサコ(株)より寄付

ユサコ(株)山川社長より、去る1月に亡くなられた故山川会長が生前に協会や会員の皆様にお世話になったお礼として、協会に10万円の寄付をいただいた。協会の活動に有意義に使わせていただく。

引き続いて委員会報告に移り、総務(西沢/医学書院)、会報(杉山/日本出版貿易)、広報渉外(尾の内/丸善)、事業(大倉/洋販)、ダイレクトリー(小林/UPS)、文化厚生(鶴/東亜ブック)の各委員長・委員長代理より活動報告および今後の方針について説明があった。

この後海老原理事長を議長として議事に入った。

1995年度決算報告

内容説明: 西沢総務委員長

監査報告: 高橋(南江堂)・篠崎(三省堂) 監事

質疑応答

決算報告をはじめ、当年度の協会の運営、活動等に関する意見交換の場として質疑応答の時間を設けた。

協会の在り方や問題点、理事会・委員会活動についての質問・提案など活発な議論がなされた後、1995年度決算は拍手をもって可決・承認された。

以上の議事を以て理事会は任期を満了したので、選挙管理委員会による役員改選に移った。

役員選挙

【選挙管理委員会】(敬称略)

委員長: 関野(トッパン)

委員: 小林(富士洋書) 村山(ゲーテ書房)

成瀬(太陽洋書) 岡見(フランス図書)

田中(海外出版) 鶴(東亜ブック)

上原(友隣社) 山縣(内外交易)

神田(事務局)

【開票結果】

投票総数 77票(内有効投票 76票理事・監事とも)

理事当選 丸善、洋販、日本出版貿易
UPS、医学書院、極東書店、
トッパン

次点 雄松堂

監事当選 三省堂、内外交易

次点 ユサコ

当選7社による新理事会が直ちに開催され、互選の結果海老原熊雄氏(丸善)が新理事長に再任された。また、各委員長も同時に互選により以下のように決定した。

〔委員会名〕 〔委員長社〕

総務委員会: 医学書院

会報委員会: 日本出版貿易

広報渉外委員会: 丸善

事業委員会: 洋販

ダイレクトリー委員会: UPS

文化厚生委員会: トッパン

1996年度予算案

内容説明: 西沢総務委員長

海老原新理事長の就任挨拶および各新委員長の委員会PRを兼ねた自己紹介の後、新理事会より1996年度予算

案が提出された。採決の結果拍手を以て可決・承認された。なお、この席上海老原理事長は今総会限りで退任する意向を表明された。

以上で全ての議事を終了し、中林理事（日本出版貿易）の次のような挨拶を以て総会を閉幕した。

皆様のご協力によりスムーズに会議が進みましたことを理事の一員として心より感謝いたします。さて、洋書輸入協会には50年の歴史がありますが、過去の延長線上に将来は殆ど無いと思います。

今後21世紀に向かって洋書輸入協会がどう在るべきかを検討して、会員の皆さんが本当に参画できるような協会になって欲しい、またそうなるべきです。時代は変わ

っていますが、まだ過去の栄光、良かった時代のイメージが残っています。そういうものを一切払拭し、「50周年」を紀元として新しい時代の洋書輸入協会の、新たな第一歩を踏み出す気持ちで理事全員が頑張っていきたいと思っています。紀伊國屋書店の退会により片肺飛行にならざるを得ませんが、会員全員が力を合わせればきっと素晴らしい飛行が出来るだろうと思います。これを機会に一層のご協力をお願いいたします。』

総会終了後恒例の懇親会に移り78名が出席、歓談のひとつきを過ごした。

以上

理事会報告

5月15日(水)

紀伊國屋書店退会に伴う緊急理事会

5月13日(月)理事会社の紀伊國屋書店より、理事長宛に突然退会届が提出された。

これを受け紀伊國屋書店の高井理事代理の出席を要請して理由の説明を求めたが単に“社の決定”ということで翻意には至らず受理することとした。

定時総会を4日後に控えての突然の申し出に理事会としては、大変困惑したが、定時総会については議事運行を予定通り行うことを確認し合って閉会とした。

6月6日(木)

(一)理事長の交代

海老原理事長（丸善会長）の退任に伴い新理事長として丸善株式会社代表取締役社長鈴木信夫氏が紹介され正式に承認された。

厳しい環境下の洋書業界に即応する協会の新しい在り方や活動の再検討を含め全会員の協力を要請する新任の挨拶があった。

(二)特別委員会の編成

紀伊國屋書店退会に象徴されるように、当協会は今大きな転換期を迎えていることを踏まえ、特別委員会の編成により、より多くの会員が納得するこれからの協会の在り方を専門に検討する。編成についてのお膳立てを新総務委員会に委嘱することとした。

(三)4月分収支報告

5月9日(木)開催の総務委員会で審議の4月分の収支について総務委員長の報告を承認した。

お知らせ

下記の2社は6月下旬、新住所へ移転されました。

◎(株)トッパン

〒104 東京都中央区八重洲2-2-7

トッパン八重洲ビル

Tel. (03) 3276-8191 (代)

Fax. (03) 3276-5446

◎ジョン ワイリー アンド サンズ リミテッド

東京事務所

〒162 東京都新宿区市谷田町2-1

市谷東ビル6F

Tel. (03) 5228-3177 (代)

Fax. (03) 5228-3090

計 報

株式会社国際書房 名誉会長 服部正喬氏は6月3日満百才と八ヶ月の天寿を全うされ永眠された。

葬儀は6月6日、7日南荻窪の長明寺において、社葬として営まれ協会員多数が参列、業界の最長老の業績を偲びつつ、お別れを告げた。

昨年10月の会報には、百歳の寿を祝う記事が掲載されているが、明治・大正・昭和・平成の4代にわたって残された足跡はまことに偉大であり、我々の心の支えともなる方を失った思いがする。

葬儀に寄せられた多くの弔電のうちから「ドイツ出版協会理事長、ゲルハルト・クルツエ氏」よりのものを、右に掲載する。

Dear Mr. Hattori,

With great sorrow I just received the information that your father has died on June 3rd 1996.

I want to send you and your family as well as the members of your staff our deepest feelings of sympathy.

For all who were known to your father and who met with him again and again it was an honour and luck. His personality will not only go on living and influencing his company but he will also remain in mind of anyone who ever crossed his way of life.

Hoping that you will succeed to come across this loss and wishing you and your family all the best I remain,

sincerely yours,

(Gerhard Kurtze)

文化厚生委員会だより

1996年第1回フォーティラブ会

春を迎えたとはいえ昨今の好ましからざる業界の景気情報を映したような肌寒さの続いていた4月12日、平成3年以来の春の定番としてお馴染みの津久井湖畔プチビラでの96年度第1回目の合宿。お宿自慢のさくらの園の七分咲きの花の下、“毎回新人生あり”のジンクスを破ることなく紀伊國屋書店からベテランの蓮沼さんの初参加を得て、書店・取次ぎ・レブのバランスの取れた合計16名（若人及びその積もり）の会員構成でした。

前日泊りの幹事連の日頃の心がけのお蔭で好天に恵まれ、混合ダブルス・男女対抗・老（？）若対抗・老若混合・会社対抗・地区対抗…と思いつく限りの“乱取り”で日が暮れるまで、世間の景気動向、会社内外の諸葛藤、家庭内の細事、等などを忘れ、コートの中で或る者は蝶となり蛙となり、或るいは風となり稲妻となって（以上、自称）力と技と己を磨きあい爽やかな汗を流しました。

ゲーム後のテニスのこと、仕事のこと、人生のことについての直言・放言・暴言・諫言あり、争論・討論あり放題の気のおけない昼食会・夕食会も、正に、例にもれず楽しいものでした。業界に活気の見えないこういう時期なればこそ、フォーティラブに顔をだしたJBIAの仲間の頑張っている姿を再確認し、自己を叱咤激励そして士気を鼓舞しこの停滞期を乗り越える明日への活力を得た思いがしたのはレポーターだけではなかったと確信します。唯、西沢会長が“理由あり”でコートに立てなかったことは残念でした。

さあ、今回は、そこの青年・壮年の皆さん、そしてJBIAに入りたてのお嬢様たちもラケット一本をもって青空の下、フォーティラブに参加しよう！

（記：ロングマンジャパン 川原）

シーボルト将来本〔2〕

丸善・本の図書館 鈴木 陽 二

◆シーボルト第1回来日と搬入図書(2)

シーボルト事件の日本の中心人物は高橋作左衛門景保であった。江戸幕府で彼は天文方兼書物奉行という重責にあったが、天文方は海外情報を収集することもその職掌の一つであった関係で、シーボルトに接触したのは役目から当然のことであった。しかしそれだけではなく、景保は熱望していたクルーゼンシュテルンの『世界周航記』を入手する手段としてもシーボルトに近づいた。オランダ商館長の江戸参府に随行して江戸の長崎屋に逗留中、最上徳内から地図を含む貴重な資料が幕府の書庫に保管されていること、そして景保が書物奉行であることを聞いたシーボルトは、機密情報収集のターゲットを景保に絞ることにした。書物奉行というのは、紅葉山文庫(楓山文庫)という幕府の書庫を管理する責任者で、貴重な書物類や機密に属する幕府の公文書・記録書類も収蔵されていた。この文庫は国立公文書館の源流の一つで、その蔵書は現在内閣文庫が所蔵している。

さて、シーボルトが景保から入手した資料は「江戸御城内御住居之図」「江戸御見附略図」「江戸城本丸ノ図」「江戸城警備の図」「武器、武具の図」、伊能忠敬の作図した「大日本沿海輿地全図」、間宮林蔵の著述『北夷分界余話』など、とてつもなく重要なものであった。そして、そのほかにも機密性の高い蝦夷地の地図類が最上徳内によって提供され、その中には間宮林蔵が北方探検に基づいて作図した「黒龍江中之洲并天度」などが含まれていた。この地図は、樺太が島であることを初めて図示したもので、これを見たクルーゼンシュテルンは「日本人我に勝てり」と慨嘆したということである。江戸城図や日本地図、それに関連した資料はもちろん門外不出のものであり、また北方関係の資料もロシア南進の危機を感じて北方探検を挙行した幕府にとって、とうてい外部に閲覧を許可するようなものではなかった。

さて、景保が上記資料を渡す代償にシーボルトより贈られた図書は、熱望していたクルーゼンシュテルン『世界周航記』のオランダ語版、チョーガラヒイ(地理書)5冊、『世界地理記』、オランダ領国(インドネシア)の地図11枚であったという。景保はクルーゼンシュテルン

の取得が幕府の利益になるという認識をもっていたように、この本を入手した彼はすぐに翻訳事業を計画し、天文方の青地林宗訳・高橋景保校によって『奉使日本紀行』が文政11(1828)年に公刊された。地理書というのは、イギリス海軍中佐タッカー(James H. Tucky)の著書のオランダ語訳『海洋通商地理学』5冊(1826)であった。現在、国立国会図書館には、シーボルト自筆の献辞で「1826年5月、江戸の帝室天文台の、敬愛なるグロビウスへ記念として」と記され、「チュケイ地理書」の貼り紙が付けられたこの本が所蔵されているという。グロビウスとは景保のことで、1810(文化7)年にオランダ商館長のズーフ(蘭日辞書の『ズーフ・ハルマ字書』を編纂した)が名付けた雅号であった(石山洋「シーボルトがグロビウスに贈った本」)。

シーボルトが日本人に渡した図書の中には、門人の伊藤圭介に贈呈したチューンベリの“Flora Japonica”があった。伊藤はこの本を翻訳して『泰西本草名疏』(文政12年)を著したが、この訳書によって初めて西洋の植物の学名に和名・漢名が当てられ、同時にリンネの雌雄蕊分類の二十四綱分類と種・属の2名法を日本に紹介した。彼は西洋型博物学を日本に導入・発展させた功労者であり、明治になってからは東京大学教授を勤め、日本で最初の理学博士となった。ほかにも、シーボルトが献辞を付して、1826年に大槻磐水に贈った蘭文の医学書もあったようだし、また、取り寄せた本の覚書に掲載されていたものでも、1834年にオランダ商館の薬剤師が目録を作成した時点で欠けていたものが10点ほど見られたということであった。これらの紛失した書籍の中に、シーボルトが資料収集や調査への協力の見返りとして贈与したものが含まれている、と考えられている。

景保は「シーボルト事件」の関係者50数名の中で、ただ一人死罪の判決を受けた(獄死)ほど厳しく糾弾されたのであったが、彼の洋学発展に対する功績は大きく、天文方に欧文書籍を翻訳する専門の部署「蕃書和解(わけ)御用」を創設したり、また彼自身が製作した『新訂万国全図』(1810=文化7年)などは、この時代の世界第1級の精良図として高く評価されたものであった。

洋書輸入協会史 (106)

洋書輸入協会顧問 相 良 廣 明

124 洋書輸入協会専用事務所の設置と事務専任者の雇用 (前号よりの続き)

124.10 事務所探しと決定

昭和42 (1967) 年4月以来、新事務所開設の資金のめども立ったこととて、毎日のように事務局から事務所探しに出掛けていたが、4月21日の理事会でも未だ見付からないとの報告があった。

新事務所は、前年に既に方針を定めていた通り、「可及的連絡集合に便利な地域」で10坪内外、保証金80万円以内を目安としている。同業者の多く集まっている神田地域か、日本橋地域が事務所探しの中心となった。

6月8日の理事会では、神田美土代町所在の某ビルに適当な所が見付かり、これに決定したいとの報告があったが、ここと細部の交渉に入ったところ、このビルの所有者は大阪にあり、間に立っている不動産屋との話と大きく食い違って、高い要求があったためにこれを取り止めた。

次いで見付かった江戸橋の藍沢ビルは、保証金こそ80万円といささか高いが、家賃は4万円と適当であり、6月20日の理事会でこれを決定、7月10日付のJBIA No. 16で次のように会員に知らせた。

記

協会本部事務所設置のお知らせ

予て総会にてご案内致しました事務所設置につきましては、一時は千代田区内神田のビルに内定し細部の交渉に入りましたが、保証金、家賃など折り合いがつかず不調となり、今回藍沢ビルと決定、契約を結び、7月11日附公正証書の作成を終了致しました。同ビル前側は駐車可能ですし、隣りは兜町有料駐車場 (高速道路の下) もございます。目下の処女子職員がおりませんので、事務長は午前中事務所に、午後は丸善内にて執務しております。

所在地 中央区日本橋江戸橋 1-15-5 藍沢ビル 3 階
302号室 電話 271-6901 面積 10坪
敷金 80万円 家賃 4万円 (以下略)

124.11 事務所借入れのための契約手続きと、事務所の開設

藍沢ビルの借室のための契約書には、契約の当事者及

び連帯保証者の印鑑証明、及び公正役場での手続きを行う事務長への両者の委任状が必要になっている。ところが契約の当事者である洋書輸入協会は任意団体で、登録もしていないので、理事長である丸善社長の司 忠氏個人の個人印の印鑑証明をつけ、委任状も作る事となった。

また連帯保証人については、丸善司氏の要望により、紀伊國屋書店社長の田辺茂一氏個人にお願いすることとなり、同氏の印鑑証明と委任状の作成がなされた。

こうして7月10日の理事会で、7月11日に公正役場での証書が出来上がることによって契約成立となることが報告された。そして現実には7月1日より新事務所の使用を開始している。

124.12 関西支部事務所の開設

7月25日の理事会では、関西支部の事務所の目どがついた旨の報告があった。

所在地 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル 3 階 4 号室
電話 371-5329 面積 10.42坪
敷金 70万円 家賃 4万円

予算としては敷金50万円、什器備品20万円であったが、敷金として70万円が必要となった。また協会本部事務所と異なり関西支部では、支部全員の会議もここで開きたいために机・椅子が多数欲しい。結局什器備品に計42万円を必要とし、敷金との計112万円を計上しなければならない。従って協会本部で集めた寄附金のうち30万円を関西支部に分配して貰いたいとの要請がなされた。

この件を理事会にて審議した結果、関西支部の事務所設置計画と寄附金30万円の分配を承認し、寄附金は8月10日までに送金することになった。

関西支部の事務所は、9月9日に開所された。当日は関西支部の役員会が、関西在住の出先機関の主なところ、及び東京から来阪した日貿の村山氏、国際の服部氏、紀伊國屋の相良の3氏を加えて開催されている。

以上をもって、他年の懸案であった洋書輸入協会の事務所が、本部・関西支部の双方で開設され、協会史上特記すべき出来事となった。

125 専門委員会の設置

昭和41 (1960) 年7月1日の理事会の席上で、丸善と

東光堂の両者で協議作製した「新事務所設置要綱案」が審議された。その案の冒頭に事務所を開設したらこのような事業を行いたいとした項目が15も掲げられている。

これらの事業を行うためには、協会の総力を結集しなければならないので、今まではそのときそのときの問題に応じて小委員会を作っていたものを改め、常設の専門委員会を設置しようということになった。

どのような委員会を作り、どのようなメンバーにするかについては、何度も議論を繰り返したが、結局次のような原則を樹てることとした。

- (1) 委員会は、総務、渉外・PR、会報、雑誌欠号、洋書交換、経営研究、文化厚生 の7つとするが、将来必要あれば増設或いは名称変更することができる。
- (2) 各委員会の委員長と副委員長は、理事が担当することとする。
- (3) 各委員会の委員は、当初は委員長と副委員長で選任委嘱をするが、いずれ希望を調査した上で協会員全員にいずれかの委員会に属して頂くこととし、委員会活動を通じて協会の活性化を計っていきたい。

以上のような原則のもとに各委員会が構成され、4月14日の懇談会、21日の理事会で正式に発足が決定した。委員会の構成と委員メンバー表は、洋書輸入協会々報第1号（昭和42（1967）年5月号）に掲載されている。

委員会活動の趣旨は、同じく会報第1号のページに、文化厚生委員会報告として洋販の渡辺正広氏を書いておられる記事が、すべてを語っていると思うので、以下に再録することとする。

記

今回洋書輸入協会は会の運用をよりよくするため、新しく事務所をもち、専従職員を採用することとなり会費を大幅に上げた。お金をたくさんだせば、その見返り大きいことを期待するのは人情としても当然であるし、投下資本を大にすれば利潤も大とすべきは資本主義の原則である。そこで、理事全員も大いにハッスルして理事会オンリーという寡頭政治から委員会システムという民主的方法に運用方針を拡大強化した。即ち会員は必ず一つの委員会構成メンバーとなり、おのおの自ら責任をもって会の運営にあたるわけである。そこで種々の委員会ができたが、私は文化厚生委員会をお手伝いすることになった。あんまりキザなセリフばかりいうとどこかの知事さんの専売を侵すみたいなので以下ビジネスライクに書く。（以下略）

126 昭和41（1966）年度（s41.4月～s42.3月）の規約改正、理事改選、新入会員、退会者、業界消息など

126.1 規約改正 なし

126.2 理事改選

昭和41（1966）年5月12日に、日本出版クラブにおいて定時総会が開催され、理事選挙が行われた。結果は次の通り。

51票	丸 善 株 式 会 社	代表者	司 忠氏
48票	株式会社紀伊國屋書店	"	田辺茂一氏
45票	日本出版貿易株式会社	"	望月政捷氏
40票	日本洋書販売配給株式会社	"	渡辺正広氏
39票	海外出版貿易株式会社	"	黒田 通氏
38票	三洋出版貿易株式会社	"	鈴木常夫氏
37票	株式会社東光堂書店	"	石内茂吉氏
29票	ユー・エス・エシアティック	カンパニー	
		"	山川隆雄氏
24票	株式会社 国 際 書 房	"	服部正喬氏
次点 16票	株式会社教文館		
	関西支部推薦支部長		

株式会社旭屋書店 " 早嶋 健氏

同上 副支部長 有限会社緑書房 " 丹羽正之氏

以上11社が理事に選任された。次いで5月13日の理事会において、互選の結果理事長は丸善株式会社司 忠氏に決定した。

126.3 新入会員 なし

126.4 退会者

(1) 東京堂 (2) 三越 (3) 内山書店 (4) 泉屋書店 以上4社については、JBIA 会報 Vol. 30 No. 5 1996（平成8）年5月号所載、洋書輸入協会史（105）の124.8、事務所設置、会費値上げの波紋の項で既に紹介済み。

(5) 朝日ブックストア株式会社

昭和41（1966）年10月28日付で脱会届が提出された。理由は、同社は洋書の他にも営業活動を行っているが、昨年から本の関係社員の退社によって人手不足になり、思うように営業活動が出来ない状態になった。そのため洋書の受注活動は停止して現在整理をしているだけなので、脱会をしたいとのこと。

126.5 会員数

昭和40（1965）年度年度末（昭和41年3月末）現在の会員数は66社であり、昭和41年度中の新入会員0、退会者5社のため、昭和41（1966）年度年度末（昭和42年3月末）現在の協会々員数は61社に減少している。（続く）

ドイツ古典文学集

CD-ROM版

X·libris社製

1枚のCD-ROMにドイツ古典文学25以上の作品が収録されています。



Goethe, J. W.: Die Leiden des jungen Werthers.
Faust I. Faust II.
Schiller, F.: Die Räuber. Kabale und Liebe.
Wilhelm Tell.
Heine, H.: Deutschland. Ein Wintermärchen.
Lessing, G. E.: Nathan der Weise.
Minna von Barnhelm.
Fontane, T.: Effi Briest.
Nietzsche, F.: Also sprach Zarathustra.
Hölderlin, F.: Hyperion.
Hoffmann, E. T. A.: Die Elixiere des Teufels.
Eichendorff, J. v.: Aus dem Leben eines
Taugenichts.
Keller, G.: Der grüne Heinrich.
Storm, Theod.: Der Schimmelreiter.
Droste-Hülshoff, A. v.: Die Judenbuche.
Mörke, E.: Mozart auf der Reise nach Prag.
Hauff, W.: Drei Märchen-Almanache.
Morgenstern, C.: Galgenlieder.

ポートレート、挿絵と共に重要作品が、完全な形で収められています。データは、オリジナルテキスト、作品解説、あらすじ、時代背景、文献等に分かれています。自由自在に検索しながら、作品を読んだり、文章をマークすることによって付属のワープで編集が出来ます。

また、一部はテキストが朗読されています。

対応機種：

CD-ROM Windows-Version(DOS/V)、ハードウェア 386sx以上 4MB RAM

Windows3.1又はWindows95、VGA.モニター 256色、640×480

このCD-ROMについては当社が日本の代理店に指定されており、常時在庫しています。

¥15,500

(株)ゲーテ書房

〒100 千代田区丸の内2-4-1 丸ビル560区
Tel. 3211-8481 Fax. 3215-3739

1996年6月 通巻第349号 洋書輸入協会

編集者 神田 俊二

〒103 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室

☎(03) 3271-6901 FAX. (03) 3271-6920

印刷所＝藤本綜合印刷株式会社